神奈川県立横浜修悠館高等学校

令和８年度　第２回学校運営協議会　議事録

１　　日時　　令和８年 10 月 24 日木曜日 10 時 45 分～11 時 30 分

２　　会場　　応接室

３　　司会　　副校長、時乗委員長

４　　記録　　事務局（経営企画・広報グループ職員）

５　　出席者

・学校運営協議会委員

野中　幹子　　（本校校長）

時乗　洋昭　　（元横浜修悠館高等学校長・NPO 全国通信制高等学校評価機構事務局長）

松田　哲治　　（横浜市立中和田中学校長）

山村　政彦　　（和泉中村町内会長）

菱　　よしみ　（泉区上飯田地区主任児童委員）

吉田　勇一　　（横浜市こども青少年局青少年部青少年育成課長）

岩間　美由紀　（湘南・横浜若者サポートステーション　コーディネーター）

・本校職員出席者

小林　匡希　　（本校副校長）

青山　晃　　（本校教頭）

柳谷　智子　　総括教諭（経営企画広報グループ）

増尾　佐紀　　教諭（経営企画グループ）

６　　資料

（１）第２回学校運営協議会次第

（２）学校評価報告書（中間報告）

（３）悠遊祭クリアファイル、悠遊祭ポスター、悠遊祭発表タイムテーブル、悠遊祭配置図

７　　次第

（１）校長挨拶

（２）学校評価部会・支援教育部会

令和８年度の学校目標の中間報告、協議

（３）その他

８　議事内容

（１）開会・校長挨拶

・開会挨拶：生徒の様子や学校目標の中間報告に対する意見交換を促す旨の挨拶がなされ、配布資料の確認が行われた。

・委員長コメント：新聞報道にあった本校卒業生（不登校を経て東京藝術大学を卒業した作曲家やパラ

リンピック選手）の活躍を引き合いに、悠遊祭のテーマ通り多様で多彩な生徒が集まっている本校の魅力について言及された。

（２）学校評価部会

・地域貢献の明確化と発信：高齢化が進む地域に対して、力仕事や清掃、行事の準備など、学校側が協力できる具体的な活動内容があらかじめ明確であれば、地域へ発信しやすいとの提案がなされた。また、今後もゴミ拾いなどの地域貢献活動（地域貢献デー）が予定されており、地域との連携を進める方針が示された。
・多角的な広報の成果：文化祭の実施案内や託児室の保育士募集において、デジタル配信だけでなく地域の回覧板（紙ベース）を活用したことが、実際の来場や採用といった実効的な成果に繋がっていると評価された。
・オンラインスクーリングの活用：登校へのハードルを下げる工夫として導入されたが、現行制度上では出席扱いにはならない現状が確認された。ただし、台風時や登校が難しい生徒の個別ニーズに応じた補完手段として有効活用されている。
・ICT を活用した運営：Google Classroom を活用して SHR での校長挨拶の動画配信を行い、学校目標やメッセージを全校生徒へ共有した実績が報告された。
・地域における役割の明確化：「災害時における地域での学校の役割」という学校評価報告書（中間報告）での表記について、地域住民により分かりやすく伝わる表現上の工夫が必要であるとの指摘があった。

（３）支援教育部会

・学習進捗管理：レポートの提出目安や進捗確認の実施について、丁寧さを評価する声がある一方、過剰な支援になっていないかとの意見も出された。また、スマホ通知等の活用により、教員と生徒の関係性構築に繋げられるのではないかとの提案があった。
・外部機関・サテライトとの連携：学校主体の就職活動になじめない生徒や進路未決定者をすくい上げるため、サテライトやサポートステーションとの連携・接続を強化することが極めて有効であると指摘された。
・進路支援の現状：9 月の就職活動開始以降、約 16 名が内定を獲得している。今後も進路未決定者を減らし、確実な出口を確保するため、引き続き外部機関との連携を継続する方針が確認された。

（４）その他

・通信制への進学希望者が増える中、中学校教員への理解を深めるため、説明会の実施などを継続することが求められた。

（５）事務連絡および閉会

・次回予定：第 3 回会議は 3 月 1 日（月）15:30 頃より開催予定。
・校長挨拶：SHR で生徒へ伝えた学校目標や、今年度の悠遊祭のテーマについての思いが語られ、出された意見を今後の学校運営に反映させていく旨が述べられ、閉会した。